

非常災害時の対応・対策について

去る7月30日に発生したカムチャッカ半島沖を震源とする大地震の発生に伴う津波警報の発令について、当日、中央斎場に火葬予約をしており、災害時対応をされた葬儀社様と意見交換を行った結果をご報告します。

1 津波警報発令の対応について

(1) 中央斎場の対応について

- ・テレビとインターネットで津波の到達時刻と津波の高さを情報収集した。
- ・当斎場の火葬実施に支障はないと判断した。
- ・市の災害対策本部に、被災なし、通常運営であることを報告した。
- ・火葬業務のスタッフには、霊柩車の遅延状況により、職員の残業対応を依頼した。
- ・火葬予約をされた葬儀社に電話連絡し、当斎場は通常運営を行うことを伝達した。
- ・予定が変わる可能性がある2社は、状況を連絡いただくよう依頼した。

(2) 各社の対応について (11社)

- ・喪家と協議し、葬儀を継続し、火葬する判断をした。(10社)
- ・一時避難したが、警報解除前に葬儀場に戻り、葬儀を再開し、遅延で火葬を行った。(1社)

2 意見交換の内容 (以下の内容で整理した)

○中央斎場の基本的な対応

ケースA：激甚災害が発生し、中央斎場は火葬停止し、復旧に時間を要する場合

- ・館内の会葬者、スタッフの安全を確保する。
- ・館内放送で、被災状況をアナウンスする。
- ・津波警報発令地域に在住の方は、この場に留まるよう要請する。
- ・中央斎場は神奈川県に広域火葬を要請し、火葬設備が復旧するまでは関東信越厚生局管内の指定火葬場で火葬を行うこととなる。
- ・以降、中央斎場は、復旧に努力する。
- ・通信手段の復旧をもって、上記の連絡を各葬儀社に電話連絡する。(HP, FAX も同時並行)
- ・被災で亡くなった方の遺体安置所は総合体育会館となり、所管の福祉こども部生活支援課から葬祭組合に霊柩車の手配の要請が行く。

ケースB：大規模な地震であるが、インフラが短期間で復旧する場合

- ・館内の会葬者、スタッフの安全を確保する。
- ・館内放送で、被災状況をアナウンスする。
- ・津波警報発令地域に在住の方は、この場に留まるよう要請する。
- ・中央斎場は、電気と都市ガスが復旧し、設備点検の結果、問題がなければ運転を再開する。
- ・運転再開の連絡を被災当日に予約している葬儀社に電話連絡する。
- ・葬祭業者業務連絡用FAXを一斉送信する。
- ・HPで再開情報を表示する。

- ・ 運転時間の延長に向け、火葬業務職員に残業の要請を行う。（委託先にも平行して要請）
- ・ 残業で当日分の火葬をカバーできない場合、直近の休場日（友引）の臨時開場ができるよう火葬業務職員及び業務委託先と調整する。
- ・ 臨時開場が可能な場合、臨時開場日に火葬する葬儀社を調整し、電話連絡する。

○葬儀社の基本的な対応

- ・ 会葬者の安全を確保する。
 - ・ 警報発令地域に所在する葬儀場の場合、避難場所に喪家を避難誘導する。
 - ・ 警報→注意報への変更をもって、葬儀社職員が葬儀場の安全確認を行う。
 - ・ 喪家に葬儀を再開するか、延期するか、確認する。
 - ・ 葬儀場に支障がなく、喪家が葬儀の再開を希望する場合、葬儀場に戻って再開する。
 - ・ 注意報発令地域に所在する葬儀場の場合、喪家に葬儀を継続するか確認する。
- （ここから警報・注意報共通）
- ・ 継続の場合、葬儀を再開し、中央斎場からの火葬炉運転の再開情報を待つ
 - ・ 再開情報の電話連絡が来たら、調整した火葬時間に中央斎場に向かう。

○今回の反省点

- ・ （共通）横須賀で地震は軽微で津波情報も葬儀・火葬に支障のないレベルであったため、平時の小さな地震時と同様の対応をしてしまった。
- ・ 中央斎場から、館内の会葬者や葬儀社に対する情報提供が不足していた。（朱書き箇所）
- ・ 災害時の中央斎場の基本的な対応が、葬儀社に浸透していなかった。
- ・ 葬儀社によって、対応マニュアルのある社とない社があった。